



(公開シンポジウム) 小児の地域包括ケアは多職種との連携と伴走型支援 目指すは子どもの成長発達を支えること

著者名	梶原 厚子
雑誌名	東京女子医科大学看護学会誌
巻	15
号	1
ページ	65-66
発行年	2020-03-31
URL	http://doi.org/10.20780/00032538

小児の地域包括ケアは多職種との連携と伴走型支援 目指すは子どもの成長発達を支えること

梶原 厚子（株式会社スペースなる 代表）

地域包括ケアシステムが子どもへと広がりを見せている昨今、2018 年度の診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等のトリプル改定では医療・訪問看護・介護・福祉・教育・保健などが連携しやすくなる施策となりました。

高齢者介護の地域包括ケアシステムは中学校区で自助、互助、公助、共助を上手く組み合わせその人らしい暮らしが続けられるような支援を作り出していくとされています。しかしながら、小児領域では地域包括ケアになじみが薄く、子どもの地域包括ケアとは何かを考え創造していくという積極的な姿勢が必要です。

子ども達は遠方の療育センターや専門病院などに通い短期入所なども利用します。また、近所の児童発達支援事業や放課後等デイサービス、保育園、学童保育、訪問看護、居宅介護など地域に密着したサービス利用も必要です。

このような状況から子どもの地域包括ケアシステムは、広域のサービスと地域密着型サービスの両方が必要となります。サービスの根拠法や所管する行政も多岐に渡り、一体的な支援が受けにくい状況です。もう一つ特徴的なのは、若い家族は近隣と顔なじみとは限らず、0 歳児の子どもを抱える家族などは互助、共助となるには相当の時間を要します。家族と看護師等で、精いっぱい頑張っでぎりぎりですり過ぎしている時期に、ご近所の人に助けて貰うという発想には無理があります。

当社の設立は 2017 年 9 月。訪問看護ステーションの開設は翌年 4 月です。訪問看護事業、研究研修事業、子ども等支援事業の 3 事業を掲げて展開し、大きく 6 つの事業を通して地域で子どもたちにケアを届ける活動をしています。

1. 訪問看護ステーションの開設

医療保険における訪問看護、特に小児若年成人の特徴を踏まえ洗練していく必要があり、小児若年成人期を専門にした訪問看護の運営・経営・人材育成を研究し公表し専門職や地域住民に訪問看護の活用方法を伝えていく活動

2. 広域と地域、多職種の自主的な協議会を定期的に開催

自治体ごとに多くの協議会が設置されていく中で多職種、多地域連携を意識して開催。子ども等支援連絡協議会。東京子ども等支援連絡協議会多摩。

3. 自治体との契約に基づく保育園での看護の提供

H31 年度医療的ケア児等保育支援事業受託（国立市）

4. 二次障害を予防する発達ハイリスク児のための椅子の研究開発

株式会社アシスト開発（シュクレ）

5. 相談支援機能強化のためのツールの開発

ケースワークは本人の夢や希望、好きな事、嫌いな事から始める。湧き立つニーズからコミュニティーワーク、そしてソーシャルアクション

6. 短時間雇用で、小さな力を大きな労働力に変える工夫

育児介護の合間にできる就労を考えていく

医療的ケアが必要な子どもを育てる母親の就労の機会を増やす
